

新規事業採択時評価結果（令和2年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
 担当課長名：奥村 康博

事業の概要

事業名	一般国道191号（山陰自動車道） 益田西道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中国地方整備局
起終点	自：島根県益田市戸田町 至：島根県益田市飯田町	延長	9.1 km		
事業概要	一般国道191号は、山口県下関市から萩、島根県益田市を経由し、広島県広島市に至る約291kmの主要幹線道路である。 益田西道路は、一般国道191号の益田市戸田町から益田市飯田町に至る延長9.1kmの自動車専用道路である。				
事業の目的、必要性	益田西道路は、災害時に強い道路ネットワークの確保、安全性・走行性の向上、主要な産業拠点からのアクセス向上により地域産業の活性化や観光振興の促進に貢献するとともに、高次救急医療機関への速達性や確実性の向上に寄与するものである。				
全体事業費	約330億円	計画交通量	約8,500～13,200台/日		
事業概要図					

関係する地方公共団体等の意見

【島根県知事】
 一般国道191号（山陰自動車道）「益田西道路」事業の予算化について同意いたします。
 本県では、希望と活力に満ちた新時代「人口減少に打ち勝ち、笑顔で暮らせる島根」を目指して島根創生に全力で取り組んでいます。人口減少に歯止めをかけるため、県内の各産業の活性化を図り、所得を引き上げ、若者を増やしていく必要があります。その実現は、県民生活や県内企業の活動に欠かせない社会インフラである山陰道の整備を前提としております。
 特に県西部においては、今後も工業団地の整備や企業誘致、空港の利用促進に取り組むこととしております。また、県内唯一の国際貿易港「浜田港」では、引き続き船舶の大型化や貨物需要の増加に対応すべく機能強化を図ることとしております。
 つきましては、島根県のこれらの島根創生の取り組みの成果がより早期に発揮できますよう「益田西道路」の早期整備をお願いいたします。
 なお、本県としては、インターチェンジにアクセスする道路の整備等の機能強化を図ると共に、地元益田市と連携し、事業の円滑な推進に向けて用地取得や地元調整などの環境整備に取り組んでまいります。

学識経験者等の第三者委員会の意見

・新規事業化については妥当である。

事業採択の前提条件

費用便益：便益が費用を上回る。
 手続き等：計画段階評価手続き完了（R2.2.25）

事業評価結果

費用便益分析	B/C	2.0 (0.6)	総費用 972億円 (事業費: 846億円 維持管理費: 125億円)	総便益 1,965億円 (走行時間短縮便益: 1,555億円 走行経費減少便益: 330億円 交通事故減少便益: 79億円)	基準年 令和元年
	感度分析の結果	交通量変動	B/C= 1.7 (交通量 -10%)	B/C= 2.3 (交通量 +10%)	
		事業費変動	B/C= 1.9 (事業費 +10%)	B/C= 2.2 (事業費 -10%)	
	事業期間変	B/C= 1.9 (事業期間 +20%)	B/C= 2.1 (事業期間 -20%)		
事業の影響	自動車や歩行者への影響	評価項目	評価	根拠	
		渋滞対策	◎	・当該区間では主要渋滞箇所が2ヶ所存在しており、交通の円滑化が必要。 ・バイパスの整備により、通過交通が現道からバイパスへ転換し、渋滞の緩和が期待される。 【渋滞損失時間の削減】 現況：19.8万人時間/年 → 整備後：13.8万人時間/年（約3割減少）	
		事故対策	◎	・当該区間では全国平均死傷事故率（64.7件/億台キロ）を上回る箇所が萩・石見空港入口交差点をはじめ8箇所存在しており、交通安全の確保が必要。 ・交通の分散により、渋滞等に起因する事故の減少が見込まれる。	
	歩行空間	-	注目すべき影響はない		
	社会全体への影響	住民生活	◎	・救急医療施設のない萩市東部の旧須佐町、旧田万川町では、重篤患者の救急搬送を益田赤十字病院に依存しているが、交通課題のある国道191号を通過せざるを得ない状況。 ・対象区間の整備により交通混雑区間が回避され、救急搬送の速達性が向上。	
		地域経済	◎	・益田市の主要な産業拠点である石見臨空ファクトリーパークから、東西方向への電子部品等の物流ルートとなる、国道191号や市道雁丁線は安定した搬送に課題。 ・工業団地へのアクセスが向上することで新たな企業の進出や既存企業の活性化を支援。 【高津IC交差点から石見臨空ファクトリーパークまでの所要時間】 現況：約13分 → 整備後：約7分（約6分短縮） 【田万川総合支所から石見臨空ファクトリーパークまでの所要時間】 現況：約19分 → 整備後：約16分（約3分短縮）	
		災害	◎	・国道191号（高津IC交差点～戸田町）は、高津川洪水浸水想定区域、防災点検要対策箇所、飛砂・滞砂区間が存在。 ・現道の課題箇所を回避し、災害に対し信頼性の高い道路ネットワークを確保。 【災害区間の回避】 高津川洪水浸水想定区域約1,000m、飛砂・滞砂区間約1,000m、防災点検要対策箇所1箇所の回避	
環境		-	注目すべき影響はない		
地域社会	◎	萩・石見空港と萩市等の観光拠点間のアクセス性が向上し、観光周遊の拡大が期待。			
事業実施環境	◎	島根県知事等より早期事業化を要望			

採択の理由

費用便益比が2.0と便益が費用を上回っていることから、事業採択の前提条件が確認できる。
 また、当該区間の整備により、通行止め時に機能する道路ネットワークの確保、安全性・走行性の向上、産業の活性化、観光振興への促進、高次救急医療機関への速達性・確実性の向上が期待でき、事業の必要性・効果は高いと判断できる。
 以上より、本事業の新規事業化については妥当である。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの
 ※B/Cの上段の値は浜田JCT～小月JCT（仮称）を対象とした場合、下段（ ）書きの値は事業化区間を対象にした場合の費用便益分析結果

新規事業採択時評価結果（令和2年度新規事業化箇所）

事業評価結果（防災機能）

事業の必要性		
災害時等に機能する道路ネットワークの確保や高次救急医療機関への速達性や確実性の向上、主要な産業拠点へのアクセス性向上より地域産業の活性化や観光振興に寄与するものである。		
評価項目	地域の課題	関連する計画
救助活動等	・当該区間は、高津川洪水浸水想定区域や、防災点検要対策箇所（1箇所）、飛砂・滞砂区間など、脆弱な区間が存在し、通行止め時には大幅な迂回を強いられるため、地域への緊急物資の円滑な輸送に支障となる恐れ。	※中国圏広域地方計画（H28.3） ・大規模地震災害に対し、圏域内の道路・橋りょうや港湾施設等の社会資本の耐震化を強力に進め、強靱な交通・物流ルートを形成する。 ※島根県国土強靱化計画（H28.3） ・災害時における避難や救急活動および物資の輸送を確保するための緊急輸送道路の軸となる山陰道の整備を促進する。
住民生活	・高次救急医療機関が存在しない萩市（旧須佐町、旧田万川町）では、益田市の益田赤十字病院への搬送が年間約270件あり、搬送時間の速達性及び確実性の向上が必要。	※中国圏広域地方計画（H28.3） ・高次医療施設へのアクセス向上に資する道路の整備を図るとともに、ドクターヘリの導入による救急対応等、広域連携による医療機能の充実を図る。
地域経済 地域社会	・益田市の主要な産業拠点である石見臨空ファクトリーパークはアクセス性が悪いこと等から、企業進出が進まない状況。 ・農作物の主な生産地である国営農地はメロン、ぶどう等の生産を行っているが、九州方面への高速ネットワークが繋がっていないことから販路拡大が進んでいない状況。	※中国圏広域地方計画（H28.3） ・リスク分散等の戦略に基づく企業誘致を推進する。このため、リスク分散等の受け皿となる企業団地や、企業誘致戦略に基づく地域独自の優遇措置等投資環境を整備するとともに、企業誘致を促進させる山陰道、北条湯原道路、美作岡山道路といった高規格幹線道路等の幹線道路ネットワークや港湾等の交通基盤の整備を進める。
その他		

事業の有効性									
<p>・当該事業の実施により、主要拠点間のリンクの評価はCランクのままであるものの、脆弱度の値が改善するとともに、不通リンクの解消によりネットワーク全体の防災機能が強化される。</p> <p>・また、本事業において、災害時にも機能する信頼性の高い道路ネットワークが形成されるとともに、救急医療活動や観光振興、地域産業の活性化に寄与するなど有効性の高い事業と評価する。</p>									
道路ネットワークの 防災機能	主な区間		改善ペア数	脆弱度 (防災機能ランク)		累積脆弱度の 変化量	改善度		評価
				整備前	整備後		通常時	災害時	
	萩・石見空港	萩土木建築事務所	23 (2)	0.92 〔C〕 〔0.86〕 〔〔C〕〕	0.37 〔C〕 〔0.86〕 〔〔C〕〕	▲216.82 (▲7.70)	0.09 (0.03)	0.70 (0.00)	○

事業の効率性	
・計画段階評価手続き完了（R2.2.25）	

※道路ネットワークの防災機能の上段の値は、浜田JCT～小月JCTを対象とした場合、下段（ ）書きの値は事業化区間を対象にした場合の防災機能評価結果。